

平成 21 年 8 月 11 日

各 位

会社名 TL ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 矢野 広一
(コード番号：3777 大証 HC)
問い合わせ先 取締役財務統括 佐藤 浩二
(Tel：03-6275-2012)

（訂正・数値データ訂正あり）「平成 21 年 12 月期 第 2 四半期決算短信」
の一部訂正について

平成 21 年 8 月 7 日に発表いたしました表記開示資料につき、下記内容で一部訂正すべき事項
がありましたので、お知らせいたします。

記

訂正箇所

1. 【サマリー情報】 上場会社名

○訂正前

上場会社名 TLH

○訂正後

上場会社名 TLホールディングス株式会社

2. 【サマリー情報】 配当支払予定日

○訂正前

配当支払予定日 未定

○訂正後

配当支払予定日 ＝

3. 【サマリー情報】 2. 配当の状況

○訂正前

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20 年 12 月期	—	＝	—	＝	＝
21 年 12 月期	—	＝			
21 年 12 月期			—	＝	＝

(予想)					
------	--	--	--	--	--

○訂正後

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
21年12月期	—	0.00			
21年12月期 (予想)			—	0.00	0.00

4. 【サマリー情報】 4. その他 (2) (注) 及び (3) (注)

○訂正前

(注) 詳細は「定性的情報・財務諸表等 4. その他」をご覧ください。

○訂正後

(注) 詳細は4ページ「定性的情報・財務諸表等 4. その他」をご覧ください。

5. 【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 (4)

○訂正前

(記載なし)

○訂正後

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失の発生及び営業キャッシュ・フローのマイナスが3期継続して発生しております。また、当第2四半期連結累計期間においても営業損失の発生及び営業キャッシュ・フローのマイナスが継続しております。当該状況により、当第2四半期連結会計期間において継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、経営改善計画に沿って引き続き収益の改善と財務体質の強化を図り、継続的に安定した経営を目指して参ります。

① コスト（特に販売費及び一般管理費）削減

具体的な方策として、希望退職の募集、外注の内製化、賃貸料の削減、Span of controlの改善等を行い、ドラステックなコスト削減に努めております。

② 事業リソースの見直しと最適化

具体的な方策として、R&D 拠点及び中国拠点の最適化、音楽配信サービスのエイミーストリートの停止、Web 受託開発事業の縮小等を行い、収益性の改善に努めております。

③ 事業ポートフォリオの整備

具体的な方策として、新製品 Linux Connector for Active Directory を軸とした OS 事業の再構築、ソリューション事業及び PHP 事業への注力、新たに IT サービス事業の展開等を行い、売上高の確保を図り、収益性の改善に努めております。

以上の方策を通じた収益性の改善により、安定した営業キャッシュ・フローを確保し、財務体質の強化を図って参ります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

6. 四半期決算短信のページ番号

○訂正前

(記載なし)

○訂正後

(本四半期決算短信のページには、【サマリー情報】(定型様式)及び【定性的情報・財務諸表等】の通し番号を追加し、1ページ~12ページの計12ページとなりました。)

7. ヘッダーへの会社名等の記載

○訂正前

(記載なし)

○訂正後

(本四半期決算短信の各ページ(【サマリー情報】は除きます。)右上部分に、「T Lホールディングス㈱ (3777) 平成21年12月期 第2四半期決算短信」を追加しました。)

以上